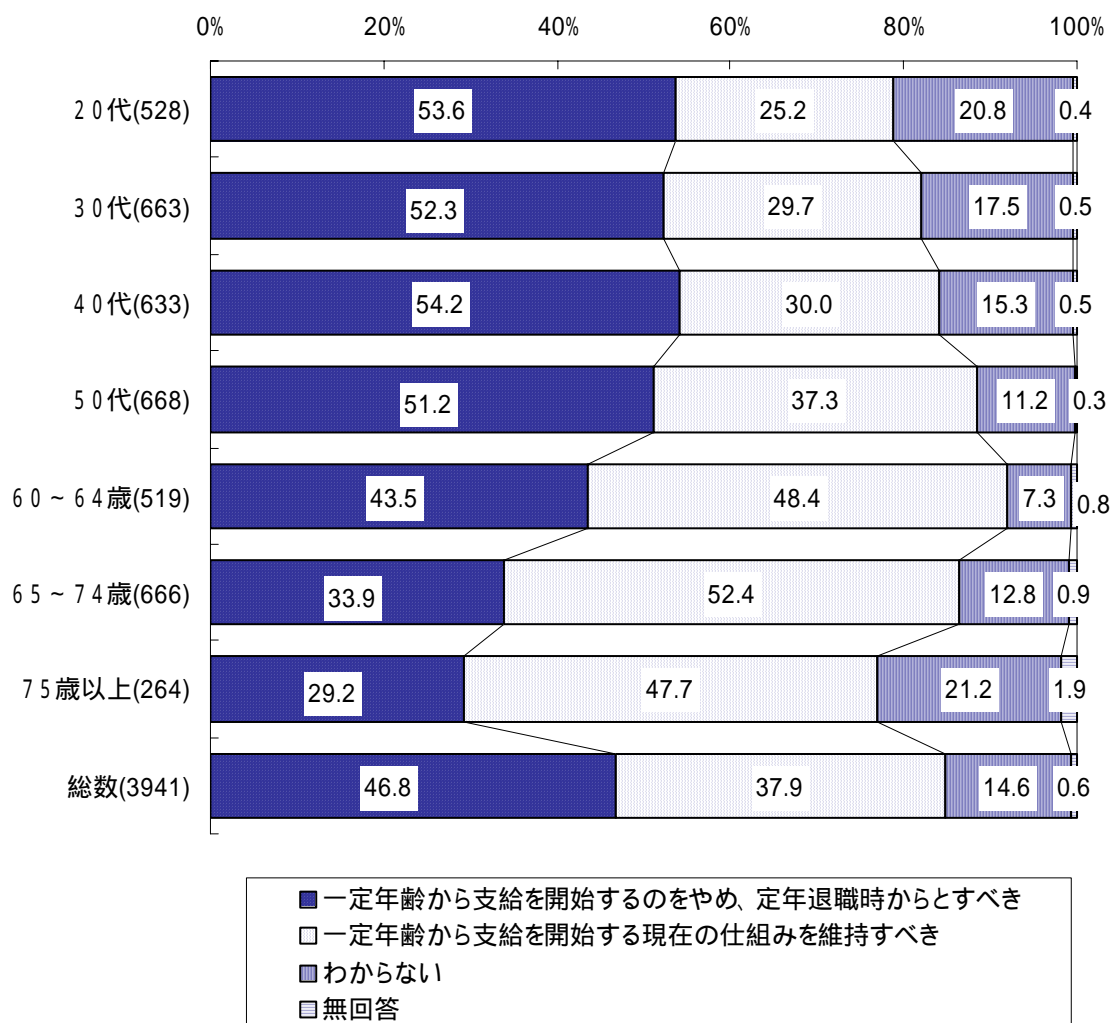


17 公的年金の支給開始時期について（Q17）

「現在、公的年金は一定年齢に達したら支給が始まる仕組みとなっており、その年齢は従来の60歳から段階的に65歳まで引き上げられることが決まっているが、この公的年金の仕組みについて、今後どうすべきか」についてみると、「一定年齢から支給を開始するのをやめ、定年退職時からとすべき」が46.8%と最も高く、「一定年齢から支給を開始する現在の仕組みを維持すべき」が37.9%となっている。なお、「わからない」は14.6%となっている。

図17 公的年金の支給開始時期について（Q17）



性別でみると、「一定年齢から支給を開始する現在の仕組みを維持すべき」（男性 42.3%、女性 34.1%）は男性の割合が高くなっている。

年齢別にみると、「一定年齢から支給を開始するのをやめ、定年退職時からとすべき」は若年層で高く、「一定年齢から支給を開始する現在の仕組みを維持すべき」は高齢層で高くなる傾向がみられる。

健康状態（日常生活への影響）別にみると、「一定年齢から支給を開始するのをやめ、定年退職時からとすべき」は、「（日常生活に）影響はない」で47.6%と割合が高くなっている。

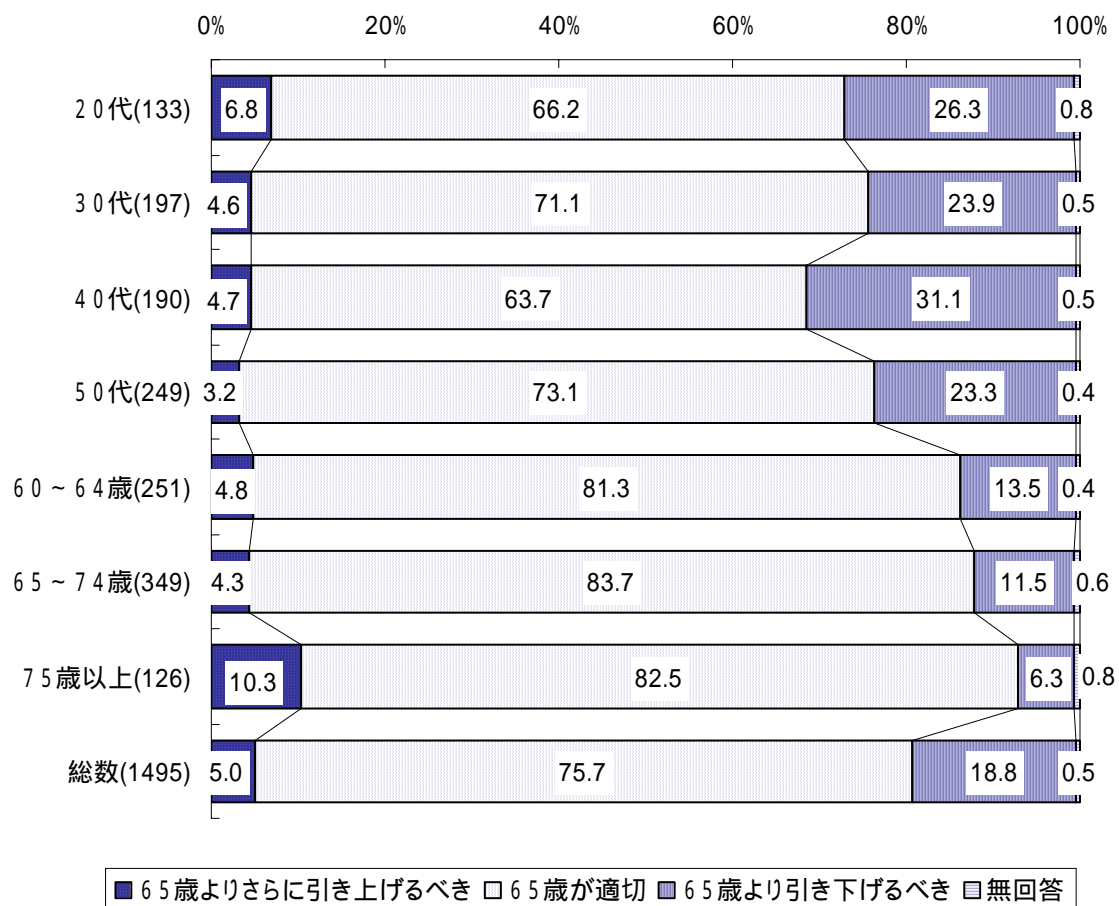
表 17 公的年金の支給開始時期について (Q17)

	総数	一定年齢から支給を開始するのをやめ、定年退職時からとすべき	一定年齢から支給を開始する現在の仕組みを維持すべき	わからない	無回答
【総数】	3,941	46.8	37.9	14.6	0.6
【性別】					
男性	1,862	45.5	42.3	11.6	0.6
女性	2,079	48.0	34.1	17.4	0.6
【年齢】					
20代	528	53.6	25.2	20.8	0.4
30代	663	52.3	29.7	17.5	0.5
40代	633	54.2	30.0	15.3	0.5
50代	668	51.2	37.3	11.2	0.3
60～64歳	519	43.5	48.4	7.3	0.8
65～74歳	666	33.9	52.4	12.8	0.9
75歳以上	264	29.2	47.7	21.2	1.9
【健康状態】					
影響がある	595	42.4	40.5	16.3	0.8
影響はない	3,319	47.6	37.4	14.4	0.6

(1) 支給開始年齢 (SQ17-1)

Q17で「一定年齢から支給を開始する現在の仕組みを維持すべき」と答えた人に「公的年金の支給開始年齢は、今後どうすべきか」について尋ねると、「65歳が適切」が75.7%と7割を超え、「65歳より引き下げるべき」は18.8%、「65歳よりさらに引き上げるべき」は5.0%となっている。

図17-1 支給開始年齢 (SQ17-1)



年齢別にみると、「65歳が適切」は、60歳以上の各年代層(60～64歳81.3%、65～74歳83.7%、75歳以上82.5%)で8割を超え高くなっている。

表 17 - 1 支給開始年齢 (S Q 17 - 1)

	該当者数	65歳よりさらに引き上げるべき	65歳が適切	65歳より引き下げるべき	無回答
【総数】	1,495	5.0	75.7	18.8	0.5
【性別】					
男性	787	6.1	73.8	19.6	0.5
女性	708	3.8	77.7	17.9	0.6
【年齢】					
20代	133	6.8	66.2	26.3	0.8
30代	197	4.6	71.1	23.9	0.5
40代	190	4.7	63.7	31.1	0.5
50代	249	3.2	73.1	23.3	0.4
60～64歳	251	4.8	81.3	13.5	0.4
65～74歳	349	4.3	83.7	11.5	0.6
75歳以上	126	10.3	82.5	6.3	0.8